

# 行政視察報告書

## 1. 委員会名

広報広聴委員会 特定事件「議会広報及び広聴に関する事項について」

## 2. 派遣委員

<出席> 7名

矢部正平委員長、藤原みどり副委員長、堀込彰二委員、菊地慶太委員、平山杏香委員、田川浩司委員、斉藤雄二委員

<欠席> なし

## 3. 日程・場所・視察内容

令和8年5月22日（金）

長野県長野市「広報広聴活動の取組について」

## 4. 目的

草加市議会では、市民意見を集約及び把握する活動を行うため、令和8年2月に常任委員会である「議会広報委員会」の名称を「広報広聴委員会」に改め、市議会の広聴に関する取組の検討を開始した。今後の草加市議会における広報広聴活動を検討するに当たり、広報広聴活動において特色ある取組などを実施している長野市を視察した。

## 5. 各委員からの報告（内容、所感（意見・課題・今後の展望など））

### ○矢部正平委員長

条例改正をして草加市議会で初の試みとなる広聴機能を今後どの様にしていくか、調査事項として議会広報及び広聴に関する事項について視察させて頂きました。

長野県長野市の長野市議会では平成29年から年一回、市役所にて市民と議員の意見交換会を各常任委員会（全議員参加）ごとにテーマを定めて集まって市民の方が選択したテーマの所で意見交換会をすることのこと。

5回実施後の【課題】として

- ・限られた場所での開催
- ・年一回の実施となっている
- ・議員からの発言が少なく、意見交換となっていない
- ・市民が苦情や要望を述べる場となっている

これらの課題を改善する為に議会活性化委員会2023にてリラックスした雰囲気の中で少人数のグループワーク形式で行うワールドカフェ方式を導入する事が決まり令和7年度か

ら第一回、議員と話そうカフェトーク in 清泉大学を実施し第二回は市立長野高校と行ったとのこと。

またアンケート結果から総合的な満足度も90%にのぼり、議員は硬いイメージだったが身近に感じたとの感想もあった。

回数を重ねて対象や方法など工夫していると感じた。

広報紙については草加市でも市民に手に取って頂けるように工夫しており参考にしたいと評価を頂きました。

広聴について草加市の地域性を考慮すると最初のスタートは市政報告や意見交換会を対象を定めないで参加したい市民を対象に開催して次回開催にむけて工夫していくスタンスで良いと感じる。まずはやってみるという事が大事だと視察を通して学びました。

### ○藤原みどり副委員長

長野市は、834.81km<sup>2</sup>の面積に約36万人が暮らす県庁所在地でもあり、1999年には中核市に移行している市です。

議会としては、平成29年度から、年1回4つの特別委員会がそれぞれテーマを決め、関心のある市民が参加しての意見交換会が開催されていたそうですが、令和5年9月の市議選において、投票率が37.32%と過去最低となり、より市民に関心を持ってもらえる議会にするにはどうあるべきか？を議会活性化検討委員会で検討。

その中のひとつに、広報広聴委員会を常設設置し、「伝える広報」から「伝わる広報」へ、「待つ広聴」から「出向く広聴」への転換に取り組むことに。

中でも、より若者に議会、議員に親しみをってもらい、政治参加や投票率向上を図る為、市民との意見交換会を「議員と話そうカフェトーク」とし、開催方法や対象者をリニューアル。

大学生や高校生を対象に、議員が学校に出向き、少人数でリラックスした雰囲気の中、ディスカッション出来るようにテーマなども事前に打ち合わせして実施。アンケート調査の結果も高評価を得ているそうです。議員の参加意欲も高いとのこと。

これは、草加市広報委員会としても、議会だよりの充実をテーマに獨協大学や文教大学の学生との意見交換会で手ごたえを得ているので、共感できました。

ただし、今後継続的に行うには、惰性にならず、常に発展的に実施していく工夫、努力が必要と考えます。長野市も、全議員を対象にした取り組みとのことで、今後、議会全体で取り組めるよう、しっかりとした骨組み作りが必要と感じました。

貴重な機会をいただき、大変にありがとうございました。

## ○堀込彰二委員

長野市議会が長年取り組んできた、「市民と議会の意見交換会」の開催。テーマごとに常任委員会が担当。議員の意識が高い。

市民との意見交換の大切さを感じた。地域課題が多岐にわたってある市だからこそ、多くの市民との意見交換が盛んになったのか。

草加市でも地域ごとのテーマで議会の意見交換会を検討したい。

数年開催された「市民と議会の意見交換会」の課題を踏まえて、新たに「議員と話そうカフェトーク」に切り替え、大学生、高校生との意見交換会に「市民と議会の意見交換会」と違う若い世代からの意見を市政に届ける。議会の出来ることを考える姿勢が大切だと思った。

誰のために、何のためにと考えると、市議会議員が市民の中に入る、意見交換会の意義がある。

草加市の広報委員会で行った、獨協大学、文教大学との意見交換会でも、素晴らしい体験となった。広聴活動に拡大されたことで、テーマを広げて再度開催したい。長野市議会ですんだ「議員と話そうカフェトーク」を参考にしたいと思った。

## ○菊地慶太委員

平成 29 年度から 4 つの特別委員会の調査報告及びテーマに沿った市民との意見交換会を令和 5 年度まで実施し、令和 6 年度から大学生などの若者と主権者教育を主眼とする意見交換として、清泉大学と市長長野高等（中）学校に対して「議員と話そうカフェトーク」を実施していることは特徴的である。

少人数に分かれたテーブルで自由な対話ができる「ワールドカフェ方式」で実施することで、学生から広く意見を聴き、議会や議員を身近に感じてもらえる取組みは参考にしたい。また委員のメンバーだけでなく、議員も協力している点は白山市議会と同様の好事例である。

草加市の広報広聴委員会でも実施に向けて進めたい。

## ○平山杏香委員

長野県の県庁所在地であり、人口 35 万 8,000 人弱の長野市。

ここ数年で広聴活動に注力し始めたとのことで、これから始めていく我々も是非参考にさせていただきたくお話を伺いました。

特に特徴的な取り組みが『議員と話そうカフェトーク』というもので、ラフな格好や BGM、テーマ、お茶やお菓子などを用意して主に学生と意見交換会を開いているとのこと。

部屋の中で数組に分かれて意見交換会をする際、同じテーブルに学生より委員（議員）が多くならないようになどとにかく話しやすい環境を作ることを努力しているそうです。

実際の映像も見せていただきましたが、例えば小さなことでも聞きやすいリラックスで

きる空間作りが重要だと感じました。

市民との意見交換はあまりしていないが各常任委員会がさまざまな団体と意見交換の場を設けたりしているので特に支障はないとのことでした。

私の意見としては、学生はもちろん市民の方との意見交換会もこのような空間作りをしてなるべく気楽に話ができるような活動ができたらすごく嬉しいです。

対委員会となると大きな主張がある方々は良いのかもしれませんが、『言いたいことや聞いて欲しいことはあるけどわざわざそのような場に行くほどのことでもないかな〜』という温度感の声は拾えず、狭いコミュニティでの広聴活動になってしまうと思うからです。

草加市の広報広聴委員会として広聴活動を進めていく際には是非さまざまな層に対してアプローチしていけたら良いと思います。

### ○田川浩司委員

善光寺の門前町として古くから栄え、県下最初の市制を施行し、来年で市制施行 130 年を迎える長野市へ広報広聴活動の取組について視察を行った。長野市議会は平成 29 年から市民と議会の意見交換会を年 1 回実施していた。コロナ渦での中止を経て令和 5 年、市議会議員選挙の投票率が 37.2%と過去最低となった事を契機に、令和 6 年議会活性化検討委員会が、今まで「議員の発言が少なく意見交換となっていない」「市民が苦情や要望を述べる場となっている」などの課題改善に向けた中間答申を行った。その内容はリラックスした雰囲気の中、少人数に分かれてテーブルディスカッションを行い、テーマ毎にテーブルメンバーをシャッフル、対話を続けるワールドカフェ方式を採用し、参加者の意見と知識を収集することと答申がなされた。そして、令和 7 年度、「議員と話そうカフェトーク」が市内にある清泉大学及び、市立長野高校で実施され、参加人数は想定より少なかったものの、ほぼ全ての参加者が満足とのアンケート結果であった。

本市での導入において、市内の大学や高校などと連携し、若者世代から報告会、意見交換会を先ずは始めてみる事が有益と考える。

### ○齊藤雄二委員

#### **長野市議会「議員と話そうカフェトーク」視察報告**

長野市議会が実施している「議員と話そうカフェトーク」について視察を行った。

この取組は、若い世代の多様な意見を聴くとともに、議会や議員を身近に感じてもらうことを目的に、長野市議会広報広聴委員会が実施しているものである。議員が高校や大学などへ出向き、生徒や学生と直接対話を行う点に大きな特徴がある。

特に参考となったのは、少人数で意見を交わすワールドカフェ方式を取り入れ、若者が自由に発言しやすい雰囲気をつくっている点である。議員が一方的に説明するのではなく、生徒や学生が日頃感じている課題や将来への思いを率直に語り、議員がそれを受け止める場となっている。意見交換では、公共交通、若者が過ごせる場所、将来も住み続けたいと思え

るまちづくり、子どもの権利や校則、地域の魅力発信など、若者の生活や将来に関わる身近なテーマが取り上げられていた。

若い世代は、議会や行政に対して意見を伝える機会が限られていることも少なくない。そのため、議員が学校などへ出向き、身近なテーマを通じて対話する取組は、若者の声を議会活動に生かすだけでなく、地域や政治への関心を高め、将来の市民参加につなげる上でも意義のあるものと感じた。

草加市議会においても、市内の高校や大学、若者団体などを対象に、議員が出向く対話型の意見交換会を検討すべきである。例えば、通学路や駅周辺の安全、若者の居場所、公共交通、将来も住み続けたいと思えるまちづくりなど、若者にとって身近なテーマを設定することで、参加しやすく、率直な意見を伝えやすい場を設けることができる。

また、意見交換で出された声を聴くだけで終わらず、所管する委員会で整理・検討し、その結果や対応状況を参加者や市民に返していく仕組みを整えることも重要である。

市民の声を「聴き」、議会で「議論し」、その結果を市民に「返す」広聴機能を充実させる上で、長野市議会の取組は、草加市議会にとって大いに参考となるものであった。

今後、草加市議会においても、若い世代をはじめとする多様な市民との対話を、議会活動や政策提言につなげる仕組みづくりを進めていく必要がある。

#### 長野市まとめ

長野市議会の「議員と話そうカフェトーク」は、高校生や大学生などの若い世代を主な対象とし、議員が学校等へ出向いて直接対話を行う取組である。少人数で自由に意見を交わすワールドカフェ方式を取り入れることで、若者が緊張せずに発言しやすい場をつくっている。公共交通、若者の居場所、将来も住み続けたいと思えるまちづくりなど、若者にとって身近な課題をテーマに対話することは、議会に届きにくい声を把握するだけでなく、政治や地域への関心を高め、将来の市民参加につなげる上でも意義深い取組である。

